「ＣＡＴＹ」の名前は、「ＣＡｍｐｕｓ」と「ｃｉＴＹ」からの造語で、地域と大学の相互理解、交流促進を目的として生まれました。「地域との共生　社会に学ぶ」を合いことばに、高等教育機関としての教育研究の成果を、地域に発信します。また学生が取材活動を通じて、読む・書く・話すといった能力を開発していくことも意図しています。

http://www.kokugakuin-jc.ac.jp

News CATY（ニュース　キャティ）

２０２０年１月　第132号

発行／國學院大學
北海道短期大学部
滝川市文京町３－１－１
TEL0125-23-4111　FAX0125-23-5590
編集事務局長　矢口元晴

研究の成果を発表

国文学科卒業論文発表会　学びへの意欲深まる

昨年12月14日、国文学科にとっての最重要行事、卒業論文発表会がホテルスエヒロにて開催されました。

私たちの学びも先輩方の紡いできた伝統に連なり、後輩たちの礎となるのでしょう。古典文学・近代文学・民話といった日本文学や先の大戦時の日本軍、さらには漢文学に北海道の遺跡など、発表の内容は多岐にわたりました。発表者たちは難解な研究テーマに臆することなく、堂々と発表していました。

中でも印象的な発表が2つあります。ひとつは、森貝和佳奈さんの「中学校における主体的・対話的で深い学びの在り方―国語科の指導を通して」です。国文学科には、教員を目指す者が多くいます。発表で触れられた教育実践例は大変興味深かったです。もう一つは、大場由貴さんの「『えぐい』の意味拡張について」です。身近な事例を挙げつつ、独特のテンポで会場を大いに沸かせました。

いずれも、それぞれの所属ゼミの特色と発表者の個性が発揮された素晴らしい発表でした。発表者をはじめ、国文学科全員で一丸となって学問・研究に打ち込めたことを誇りに思います。

講評も各自の学びにおいて大変参考になったと思います。特に菅野先生の「ものは分かれば分かるほど分からなくなる。よって、自ずと謙虚にならざるを得ない」という言葉は、学生をさらに深い学びの世界へと引き込みました。

今回の発表会を機に、さらに勉励しようと思います。（国文学科2年／田代史弥）

初等教育研究会報告会　貴重な学びの機会に

児童教育コースの2年生が教育実習で行った研究授業の改善策やゼミナールの各種活動の実践を報告し合う初等教育研究会報告会が1月15日に開催されました。本年度の研究報告会では「稲作体験から学ぶ食育の在り方」、「環境教育の実践」、「児童が挑戦したいと思える授業展開について」、「児童主体の問題解決型の授業を目指して」の四つの研究内容を御来賓の皆様方をお迎えして報告されました。

まず「稲作体験から学ぶ食育の在り方」では、稲作体験活動やタイカレー・アルファ米作り等の活動を通して、食育には他教科と関連づけた実践が必要であることなどについて報告されました。

「環境教育の実践」では、滝川市内の小学校やこども科学館等で行った出前授業等の実践により持続可能な社会を目指す環境教育の重要性や様々な気付きについて報告がありました。この後、教育実習の学びについて杉山愛衣理さんと尾野愛美さんが発表をしました。杉山さんは実習校の紹介後、「児童が挑戦したいと思える授業展開について」と題して児童の思考段階を大切にし、達成感を得られる授業展開について、そして、最後の報告となった尾野さんからは、「児童主体の問題解決型の授業を目指して」と題して自身の教育実習での経験に基づいて、発問や言語活動を工夫することの大切さについて報告がありました。

最後に滝川市教育委員会の廣瀬指導参事から講評をいただき、すべての日程を終了しました。これら4つの実践発表は、私たち1年生にとって、次年度の実践意欲を高める貴重な学びの機会となりました。（幼児・児童教育学科児童教育コース1年／溝口廉太郎）

幼児教育研究会にピアニスト　プロの演奏に感動

12月5日、幼児教育研究会が開催され、講師としてピアニストの新堀聡子先生に来ていただき、素晴らしいピアノの演奏を聴くことが出来ました。

普段、プロの演奏を聴くことがないので、指の使い方、弾くときの雰囲気、音の出し方などを間近に見ることができ勉強になりました。私も長くピアノを習っていたので、知っている曲や弾いたことがある曲が演奏されると、とても感動しました。一曲一曲弾く時の雰囲気がそれぞれ違い、どの曲も引き込まれそうになりました。何よりも演奏されている先生が、楽しくピアノを弾いている姿を見たとき、自分に足りないものが見つけられたような気がします。それは自分自身が、楽しく弾くことが何よりも大切なことだということです。楽しくない気持ちでピアノを弾いていると、聞いている方に不快な気持ちにさせてしまうということを、私が習っていた先生が言っていたのを思い出し、その意味が理解できたような気がします。

私もこれから幼稚園の先生として働きますが、ピアノを弾きながら歌い、日々の生活の中で子どもたちと楽しく活動できる先生になりたいと改めて思いました。この2年間で学んだこと体験したことを生かして、卒業してからも頑張りたいと思います。（幼児・児童教育学科 幼児保育コース2年／佐々木なごみ）

収穫の米で餅つきと調理

関係者招き収穫祭

6月の田植えから始まった稲作体験学習も最後の活動になりました。私たち児童教育コース2年生は12月18日、本学栄養実習室にこれまでお世話になった地域のとんぼの会、滝川おもしろ食育塾、JAたきかわの関係者の皆様をお迎えし、盛大に収穫感謝祭を開催しました。

収穫したお米、ななつぼしでおにぎりづくり、臼と杵を使った懐かしい餅つき、つきたての餅を入れた雑煮づくり、参加者全員での会食と、みんなで収穫を祝い、感謝する楽しいひと時でした。

生まれて初めて行った餅つきは想像していたより難しく、徐々にもち米に粘り気が出てくる感覚などが新鮮でとても楽しかったです。杵を自由に操作しているとんぼの会の平澤一彦さんの姿がかっこ良かったです。つきたての餅を、みんなでちぎって丸めるのは、熱くて大変でしたが、お湯に通して、あんころ餅、きなこ餅、納豆餅、みたらし餅、大根おろし餅、ねぎおかか餅のトッピングで食べました。中でもねぎおかかは、初めての食べ方でしたが、絶妙の味でした。会食の前におなかがいっぱいになりました。

会食は、稲作体験でご指導・ご協力いただいた地域の皆様と一緒のテーブルで、稲作体験のことだけでなく、滝川での生活のことなど、時間がたつのも忘れるくらいお話が弾みました。一緒に会食ができたことでとても楽しい時間を過ごすことができました。

私はこの稲作体験学習を通して、食育とは食物を大切にしようとする気持ちやそれを作る働く人たちへ感謝する気持ちを養うためにとても重要であると感じました。（幼児・児童教育学科 児童教育コース2年／菅原僚馬）

授業料が2年間半額

幼児保育コース　奨学金付き試験導入

令和3年度選抜試験（入試）から、幼児保育コース進学者に限り授業料が半額となる奨学金（給付制）付きの選抜試験を実施します。

この制度の特徴は、北海道内に限らず全国各地の受験生が対象となり、選抜試験に合格し入学した場合は、授業料の半額を奨学金として2年間給付されます。経済的な事情を抱え幼稚園教諭や保育士になることをあきらめかけていた方は、是非この制度を活用して本学に入学し、夢を実現してください。

なお、出願条件は評定平均値3・2以上を満たすことが条件となっており、詳細については今年4月以降に配布される入試要項でご確認ください。

また、次年度のオープンキャンパスの日程も決定し、第1回目が5月30日、第2回目が6月27日、第3回目が7月25日、第4回目が7月26日、第5回目が10月3日です。オープンキャンパスでも入試説明会を行いますのでご参加ください。

國學院大學編入学者決定

令和２年度國學院大學３年次への編入学者が決定しました。國學院大學の５学部12学科へ157名（推薦）の学生が、この４月から東京渋谷及び横浜たまプラーザのキャンパスで学ぶことになります。

なお國學院大學以外に、国士舘大学・駒澤大学・流通経済大学等への編入学が決定しています。

学部	学科	合格者数
文学部	日本文学部	３４
	外国語文化学科	１７
	史学科	１７
	哲学科	１４
	中国文学科	１
神道文化学部	神道文化学科	１２
法学部	法律専攻	５
経済学部	経済学科	１６
	経済ネットワーキング学科	１６
	経営学科	１１
人間開発学部	初等教育学科	７
	健康体育学科	７
合計		１５７

総合教養学科研究発表会　実行委員長として活躍

昨年の12月15日、総合教養学科研究発表会を本学402教室で開催することができました。私は実行委員長として各ゼミから選出された実行委員のみなさんとともに、開催のために全力を尽くしました。

「偏差値エリート」という言葉を耳にする機会が増え、大学・大学生の意味を考え直すタイミングにあると思います。人生は教養と経験のバランスから成り立つと考えています。現代の大学生の多くは教養が足りていません。経験を重視する声、フィールドワークの重要性を説く声は多数ありますが、その機会を有効活用するためには、まずはある程度の教養を身に付ける必要があります。

こうしたことから総合教養学科研究発表会はそのためによい環境が整っています。各人がそれぞれ違う発表内容、限られた時間での情報収集、そしてその分野に精通していない人に理解されるように話す。その「発表」はゼミとしての「義務」ではなく「権利」です。学生だからこそできる、自由で幅広い研究・勉強は一生の糧になります。

私が研究発表会実行委員長を務める上で意識したのは、いかに「聞く会」にできるかでした。発表者は当日までに、緊張感と焦りの中で努力を重ねているので、必然的に力が付きます。しかし、他の学生はそうはいきません。大学生になると目の前に様々な誘惑が現れ、簡単に楽な道に進むことができるようになります。それは、今だけできることで、社会に出てからは通用しません。親に学費を出してもらい、多くの人が親元を離れて勉強できる環境に身を置かせてもらっているからこそ、私たち國學院大學北海道短期大学部学生として大きく成長するべきではないでしょうか。（総合教養学科研究発表会実行委員長・総合教養学科2年／持増岳翔）

地域の皆さんの学びの場として実施しているオープンカレッジ（教養講座）の受講生と学生の発表の場、「はる展」を下記のとおり開催いたします。書道、絵画、短歌、写真など受講生による作品が展示されますので、多くの方々のご来場をお待ちしております。また、３月７日午後１時半から受講生によるピアノコンサート、３月14日午後１時から親と子のワークショップ（紋切りあそび）が開催されます。

記

日程・・・３月７日～３月15日（３月９日は休館）
場所・・・滝川市美術自然史館
入場・・・無料
＊ワークショップ参加は自由・無料